

## 1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。  
このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 23年			平成 22年 <sup>*1</sup>			感染症 類型	疾 病 名	平成 23年			平成 22年 <sup>*1</sup>			
		1～6月		7月	1～12月					1～6月		7月	1～12月			
		滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国			滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	四類	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0		ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	
	痘そう	0	0	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	29	0	16	0	133	
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0		日本脳炎	0	1	0	1	0	4	
	ベスト	0	0	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0	0	0	
二類	急性灰白脳炎	0	1	0	0	0	2		ブルセラ症	0	0	0	0	0	2	
	結核	161	14,348	24	2,561	251	26,704		ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0		ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0	0	0	
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0		ボツリヌス症	0	3	0	0	0	1	
三類	コレラ	0	2	0	1	0	10		マラリア	0	30	0	5	0	76	
	細菌性赤痢	2	99	0	13	2	235		野兎病	0	0	0	0	0	0	
	腸管出血性大腸菌感染症	17	1,173	19	625	66	4,131		ライム病	0	2	0	1	0	13	
	腸チフス	0	10	0	3	0	32		リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	
	バラチフス	0	13	0	3	1	21		リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	
四類	E型肝炎	0	36	0	1	0	66	五類	類鼻疽	0	0	0	0	0	4	
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0		アメーバ赤痢	2	376	0	65	7	845	
	A型肝炎	0	131	0	7	3	346		ウイルス性肝炎	1	127	0	26	3	222	
	エキノコックス症	0	11	0	0	0	17		急性脳炎	1	163	0	20	0	241	
	黄熱	0	0	0	0	0	0		クリプトスボリジウム症	0	5	0	1	0	16	
	オウム病	0	8	0	2	1	11		クロイツフェルト・ヤコブ病	1	59	0	6	2	171	
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症	1	124	0	13	3	127	
	回帰熱	0	0	0	0	0	1		後天性免疫不全症候群	2	691	1	119	1	1,549	
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0		ジアルジア症	0	34	1	5	1	80	
	Q熱	0	0	0	0	0	2		髓膜炎性髓膜炎	0	7	0	0	0	7	
	狂犬病	0	0	0	0	0	0		先天性風疹症候群	0	1	0	0	0	0	
	コクシジョイディス症	0	2	0	0	0	1		梅毒	3	359	0	68	9	621	
	サル痘	0	0	0	0	0	0		破傷風	1	52	0	12	0	106	
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0		パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0		パンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	27	0	3	2	121	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0		風しん	2	231	0	41	5	89	
	炭疽	0	0	0	0	0	0		麻しん	1	348	1	24	1	455	
	チクニニア熱 <sup>(*)</sup>	0	5	0	0	-	-		鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	0	70	0	0	0	9	
	つつが虫病	0	151	0	6	2	406		細菌性赤痢のサル	7	12	2	2	0	59	
	デング熱	1	42	0	8	2	245		エキノコックス症の犬	0	0	0	0	0	1	
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0									

(\*): 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。-: 未集計

\*1 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数)

滋賀県における全数報告感染症の概要  
(7月)

## &lt;結核&gt; 24名

性別: 男性 9名、女性 15名  
類型: 患者 17名  
無症状病原体保有者 7名  
病型: 肺結核 10名  
その他の結核 7名  
無症状病原体保有者 7名

## &lt;腸管出血性大腸菌感染症&gt;

性別: 男性 9名、女性 10名  
類型: 患者 14名  
無症状病原体保有者 5名  
年齢: 0～9歳 3名、10～19歳 3名  
20～29歳 6名、30～39歳 3名  
40～49歳 3名、50～59歳 1名  
血清型・毒素型:  
O157・VT1&VT2 14名  
O157・VT1 1名、O26・VT1 3名  
O121・VT2 1名

<後天性免疫不全症候群> 男性 66歳  
推定感染経路、推定感染地域とともに不明です。また、病型はAIDSです。<ジアルジア症> 女性 66歳  
推定感染経路は経口感染で、推定感染地域はマレーシアです。<麻しん> 男性 30歳  
推定感染経路は飛沫・飛沫核感染で、推定感染地域は日本国内です。また、ワクチンの接種歴は不明です。<細菌性赤痢のサル> 2例  
感染原因は、保菌ザルの入荷による推測されます。

## 2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一ヵ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したもので(患者報告数／定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。

また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

### 7月の概要

#### <インフルエンザ>

第27～30週(7/4～7/31)の定点当たり患者数は、先月よりさらに減少し0～0.06で推移していました。

#### <小児科定点疾患>

今月増加した疾患はRSウイルス感染症、百日咳、手足口病およびヘルパンギーナで、他の疾患ではすべて減少していました。特に、手足口病およびヘルパンギーナで大幅に増加していました(各疾患の週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数の ラフ参照)。

手足口病については、第26週(6/27～7/3)に県内全域に警報が発令されました。今月(第27～30週)も警報の発令は継続していました。ヘルパンギーナについては、第28週(7/11～7/18)に県内全域に警報が発令されました。また、咽頭結膜熱(プール熱)については、第24週(6/13～6/19)に県内全域に警報が発令されていましたが、第30週(7/25～7/31)に解除されました。

手足口病およびヘルパンギーナの年齢群別発生状況は、下記のとおりです。

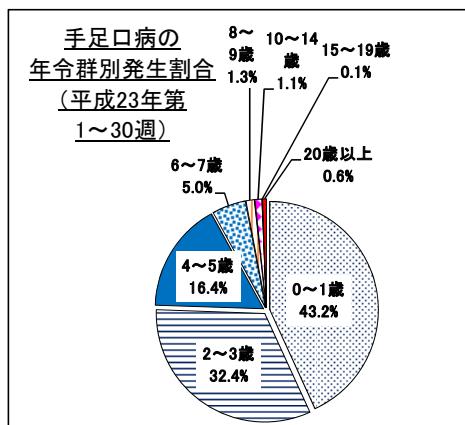
#### <眼科定点疾患><基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月とほぼ横ばいで、先月と同様、彦根保健所管内からの報告が多くなっていました。急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患では、細菌性髄膜炎は先月と横ばいでいた。無菌性髄膜炎は先月よりやや増加し、東近江保健所管内からの報告が多くなっていました。マイコプラズマ肺炎は先月の半減となりましたが、東近江保健所管内からの報告が多くなっていました。また、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

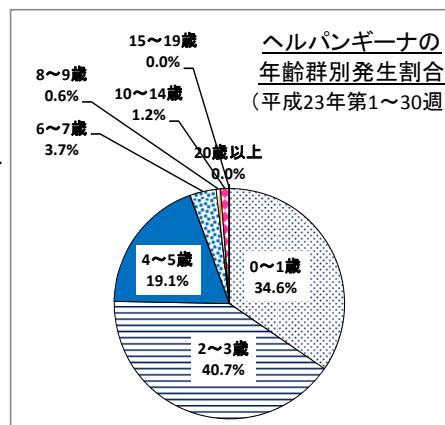
#### <疑似症定点からの報告>

報告はありませんでした。

手足口病およびヘルパンギーナの年齢群別発生割合  
(平成23年第1～30週、H23.1.3～H23.7.31)



手足口病では、0～1歳で全体の約43%を占めています。ヘルパンギーナでは、2～3歳で全体の約41%を占めています。手足口病、ヘルパンギーナともに、0～3歳で全体の約75%を占めており、全国とほぼ同様の発生割合となっています。また、手足口病の全国における原因ウイルスは、コクサッキーウィルスA6型(CA6)が多くなっています。



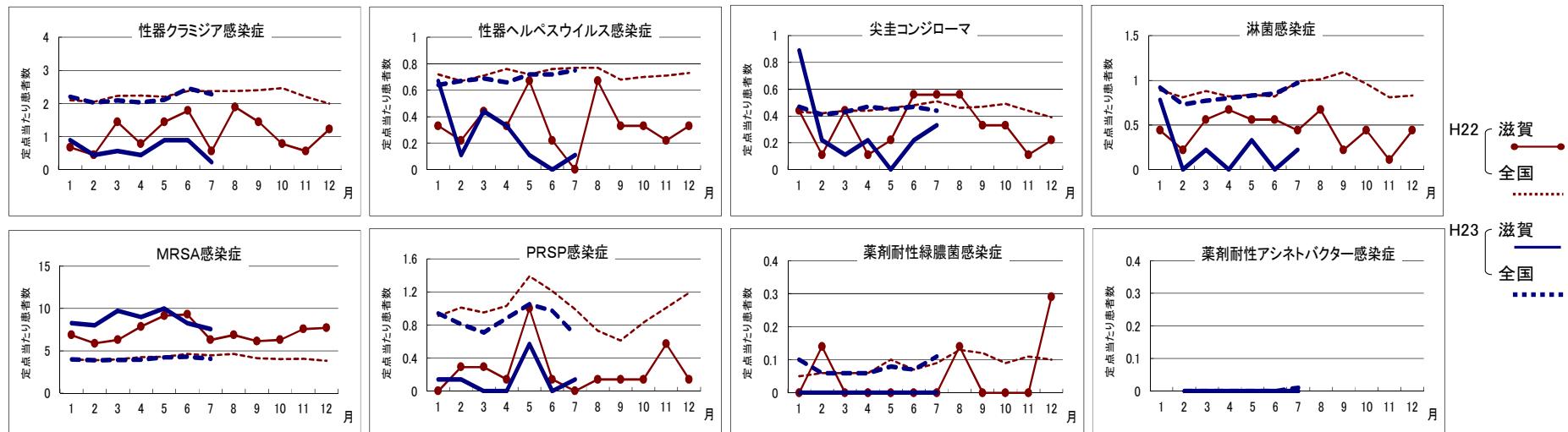
#### <各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

### 3)性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成23年7月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	報告数	8	4	5	4	8	8	2						39
	定点当たり患者数	0.89	0.44	0.56	0.44	0.89	0.89	0.22						4.33
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	1	4	3	1	0	1						16
	定点当たり患者数	0.67	0.11	0.44	0.33	0.11	0	0.11						1.77
尖圭コンジローマ	報告数	8	2	1	2	0	2	3						18
	定点当たり患者数	0.89	0.22	0.11	0.22	0	0.22	0.33						1.99
淋菌感染症	報告数	7	0	2	0	3	0	2						14
	定点当たり患者数	0.78	0	0.22	0	0.33	0	0.22						1.55
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	58	56	68	63	70	58	53						426
	定点当たり患者数	8.29	8.00	9.71	9.00	10.00	8.29	7.57						60.86
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	1	0	0	4	0	1						7
	定点当たり患者数	0.14	0.14	0	0	0.57	0	0.14						0.99
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0	0	0	0	0	0	0						0
	定点当たり患者数	0	0	0	0	0	0	0						0
薬剤耐性 アシнетバクター感染症 <sup>(*)</sup>	報告数	-	0	0	0	0	0	0						0
	定点当たり患者数	-	0	0	0	0	0	0						0

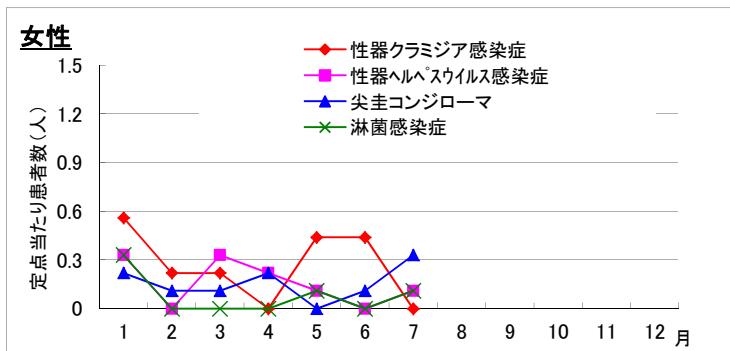
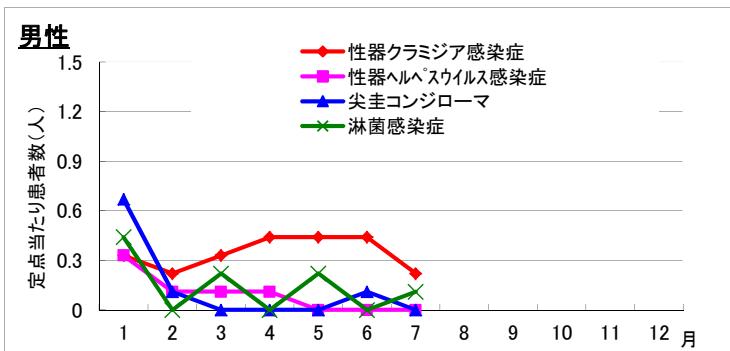
\* : 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。 -は未集計。



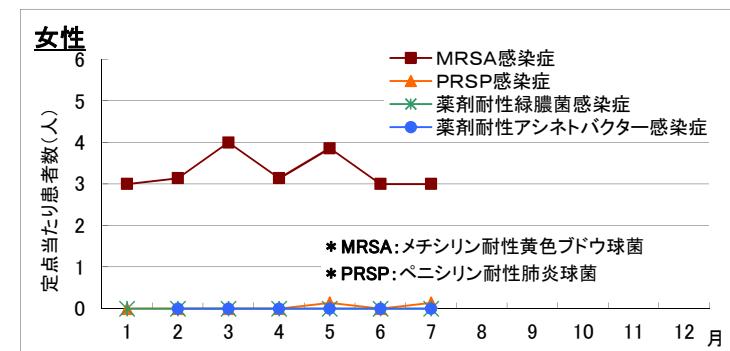
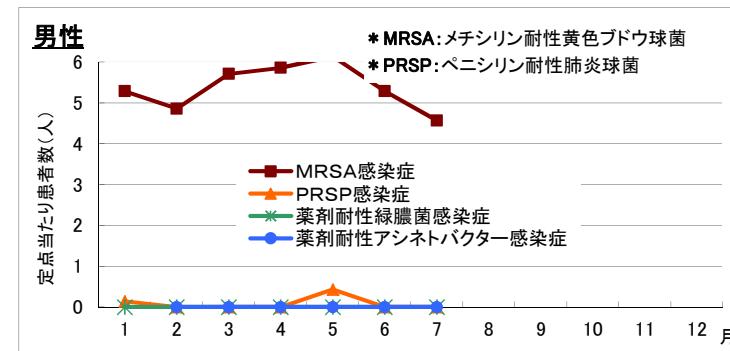
滋賀県における発生状況を先月と比較すると、増加した疾患は性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症およびPRSP感染症です。減少した疾患は性器クラミジア感染症およびMRSA感染症で、性器クラミジア感染症では大幅に減少しています。また、薬剤耐性緑膿菌感染症および薬剤耐性アシネットバクター感染症では、発生が確認されていません。

MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌  
PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

## 性感染症定点における疾患別発生状況 (H23.7)



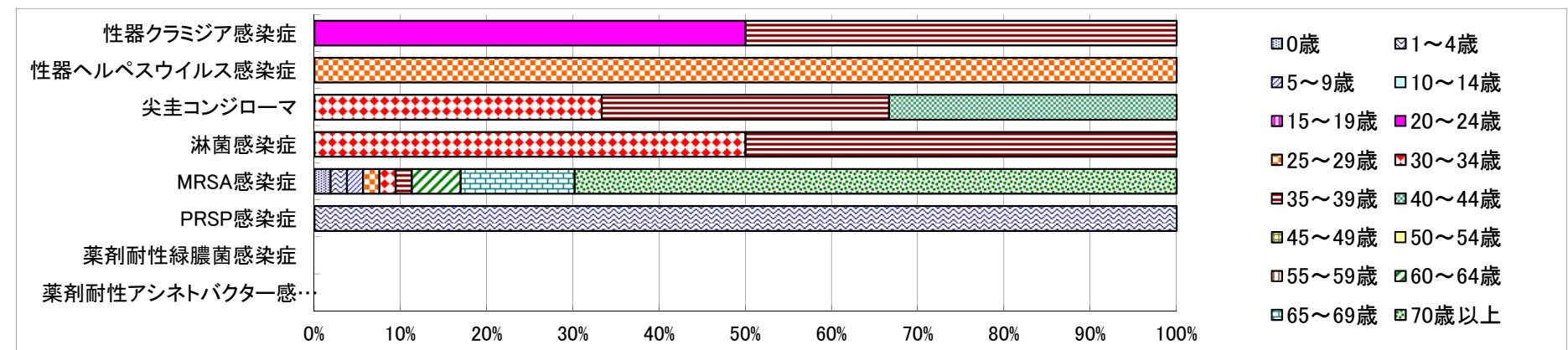
## 基幹定点における疾患別発生状況 (H23.7)



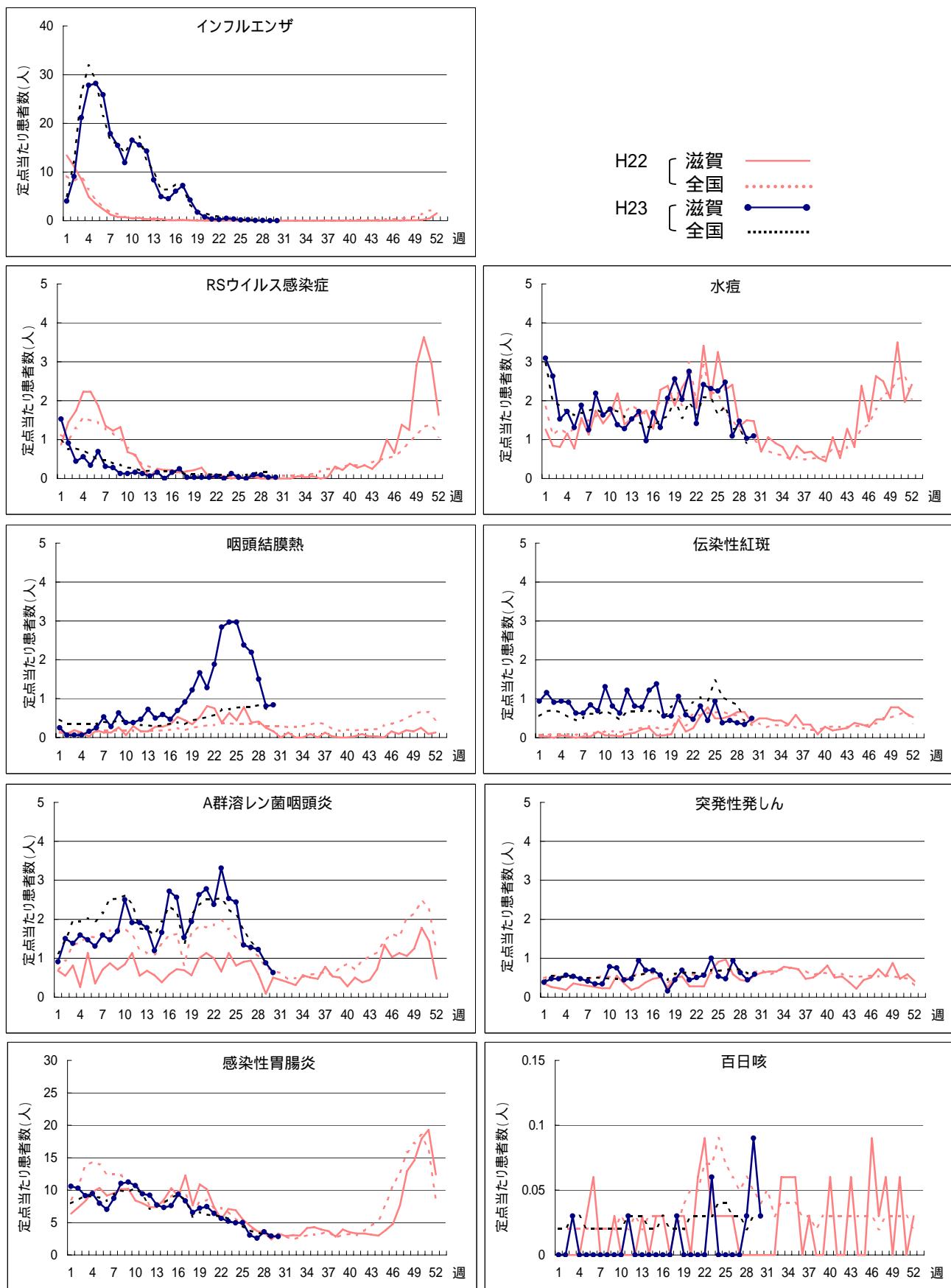
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。性器クラミジア感染症では男女ともに先月より減少し、特に女性で大幅に減少しています。淋菌感染症では男女ともに先月より増加しています。MRSA感染症では、男性で減少しています。

また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。尖圭コンジローマおよび淋菌感染症では、女性における30～44歳からの報告が多くなっています。

## 疾患別・年齢別発生状況(H23.7)

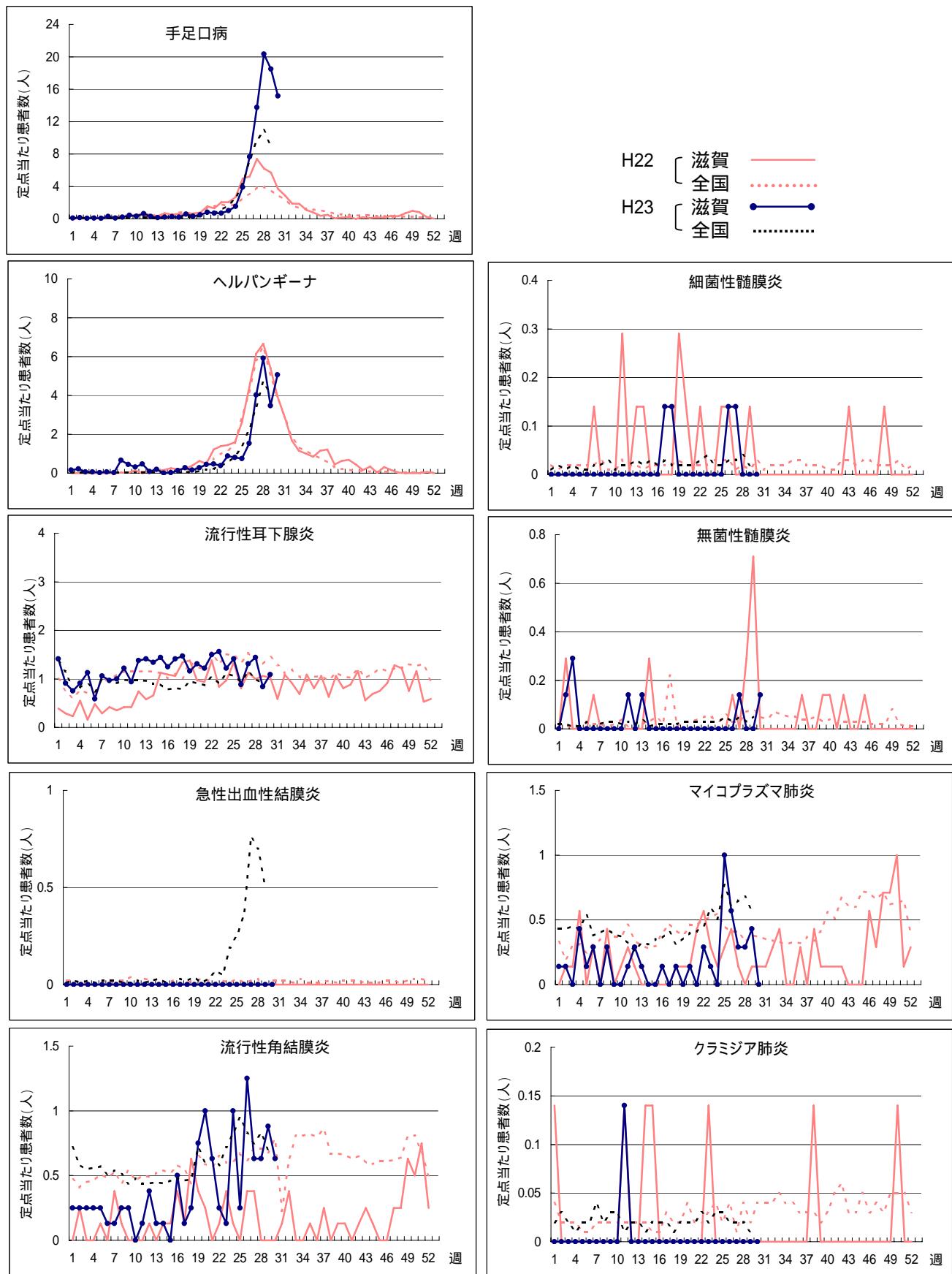


## 疾病別定点当たり患者数(平成23年第1～30週、H23.1.3～H23.7.31)



戻る

## 疾病別定点当たり患者数(平成23年第1～30週、H23.1.3～H23.7.31)



戻る